キヤノンマーケティングジャパン株式会社
2022年第2四半期　決算説明

2022年7月25日

取締役上席執行役員　蛭川　初巳

Canon

キヤノンマーケティングジャパン株式会社

■本資料では、億円単位未満の端数は四捨五入により表示しております。
■本資料で記述されている業績予想及び将来予測は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。
そのため、様々な要因の変化により、実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。

皆さま、こんにちは。蛭川でございます。

本日は大変お忙しい中、2022年第2四半期決算説明会にご参加頂き、誠に有難うございます。

2022年第2四半期決算と業績予想についてご説明します。

決算のポイント　第2四半期(4月～6月)

Canon

売上高	**1,425億円**	**（前年比　+77億円／+6%）**

✓ エリアは減収となったものの、コンスーマ、エンタープライズ、プロフェッショナルが増収となり増収

営業利益	**130億円**	**（前年比 +30億円／+30%）**

✓ コンスーマは減益となったものの、エンタープライズ、エリア、プロフェッショナルが増益となり増益

親会社株主に帰属する四半期純利益	**93億円**	**（前年比 +23億円／+32%）**

2

2ページ目は、2Q決算のポイントになります。

売上は、製品の供給不足の影響を受けたこと等によりエリアセグメントで減収となりましたが、コンスーマセグメント、エンタープライズセグメント、プロフェッショナルセグメントで増収となり、6%増の1,425億円となりました。

営業利益は、 IT費用等の販管費が増加したことによりコンスーマセグメントで減益となりましたが、エンタープライズセグメント、エリアセグメント、プロフェッショナルセグメントで増益となり、30億円増益の130億円となりました。

親会社株主に帰属する四半期純利益は、23億円増益の93億円となりました。

セグメントごとの詳細につきましては、この後ご説明いたします。

業績サマリー　第2四半期(4月～6月)

Canon

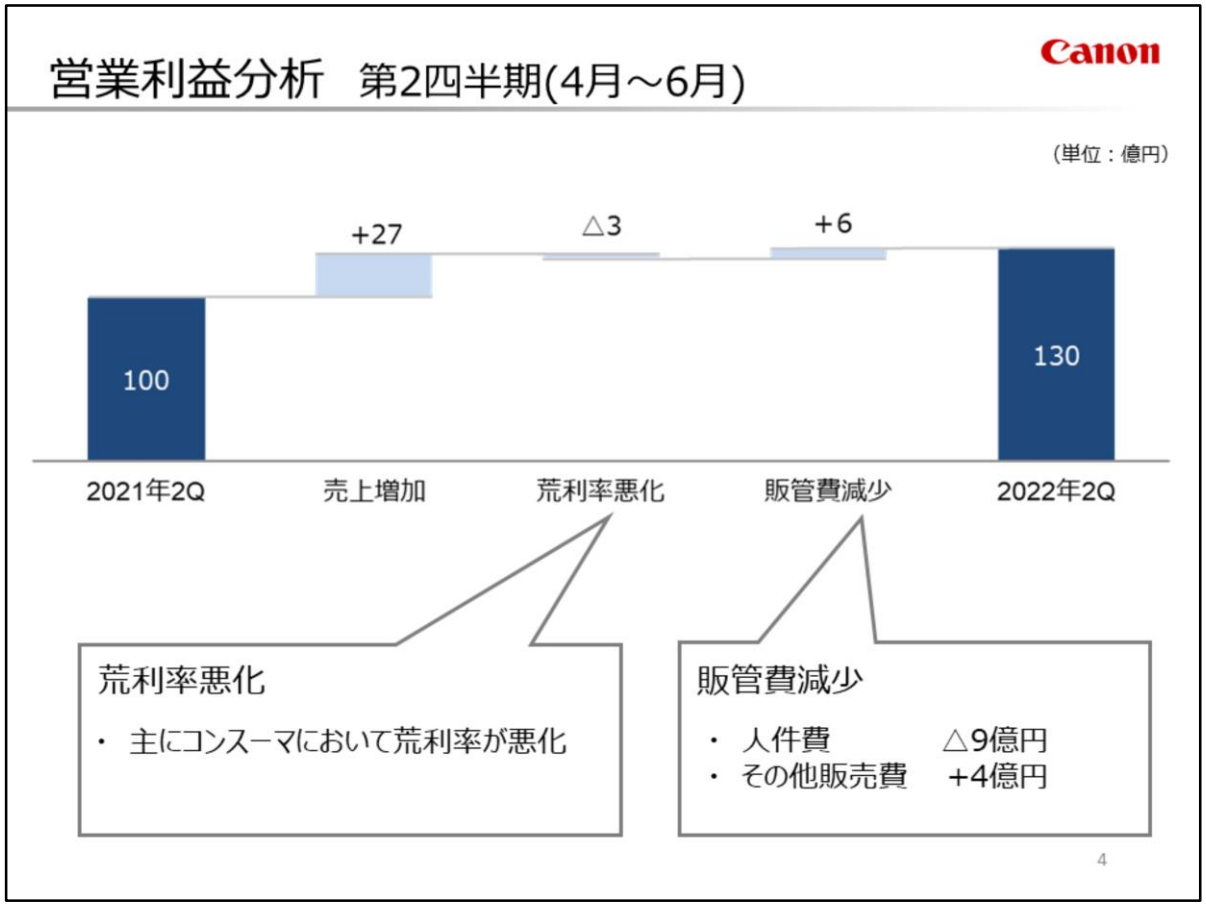
✓ **営業利益、経常利益、純利益は2Qでの過去最高を更新**

（単位：億円）

	2021年 2Q	2022年 2Q	前年同期比較 金額	前年同期比較 率
売上高	1,348	1,425	+77	+6%
売上総利益	(35.5%) 478	(35.3%) 502	(△0.2%) +25	+5%
営業利益	(7.4%) 100	(9.2%) 130	(+1.7%) +30	+30%
経常利益	(7.9%) 106	(9.6%) 137	(+1.8%) +31	+29%
親会社株主に帰属する四半期純利益	(5.2%) 71	(6.6%) 93	(+1.3%) +23	+32%

3ページ目は、2Qの業績サマリーです。

2022年2Qは営業利益、経常利益、純利益において、2Qでの過去最高の数値を更新することが出来ました。



続いて4ページ目は、2Qの営業利益分析です。

売上の増加に伴い荒利が27億円増加しております。
コンスーマセグメントにおいて前年同期にインクジェットプリンターの高単価製品の売上構成比が高まっていたことの反動等により、荒利率が若干悪化いたしました。

販管費につきましては、人件費のうち退職給付費用が減少したこと等により、6億円減少しております。

なお、第2四半期の販管費の詳細は23ページの「販管費の内訳」をご参照ください。

セグメント概要　第2四半期(4月～6月)

Canon

（単位：億円）

	2021年 2Q		2022年 2Q		増減	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
コンスーマ	306	37	315	35	+9	△2
エンタープライズ	446	27	494	41	+47	+14
エリア	568	34	556	40	△12	+7
プロフェッショナル	80	9	111	19	+31	+10
その他	△52	△6	△51	△5	+1	+1
合　計	1,348	100	1,425	130	+77	+30

※「その他」には、セグメント間取引消去とシェアードサービス事業、各セグメントに配分していない全社費用等が含まれます。

5ページ目は、2Qのセグメント別の実績概要です。
エンタープライズセグメント、プロフェッショナルセグメントで大幅な増収増益となっております。

業績サマリー　第2四半期累計(1月～6月)

Canon

✓ **営業利益、経常利益、純利益は上期の過去最高を更新**

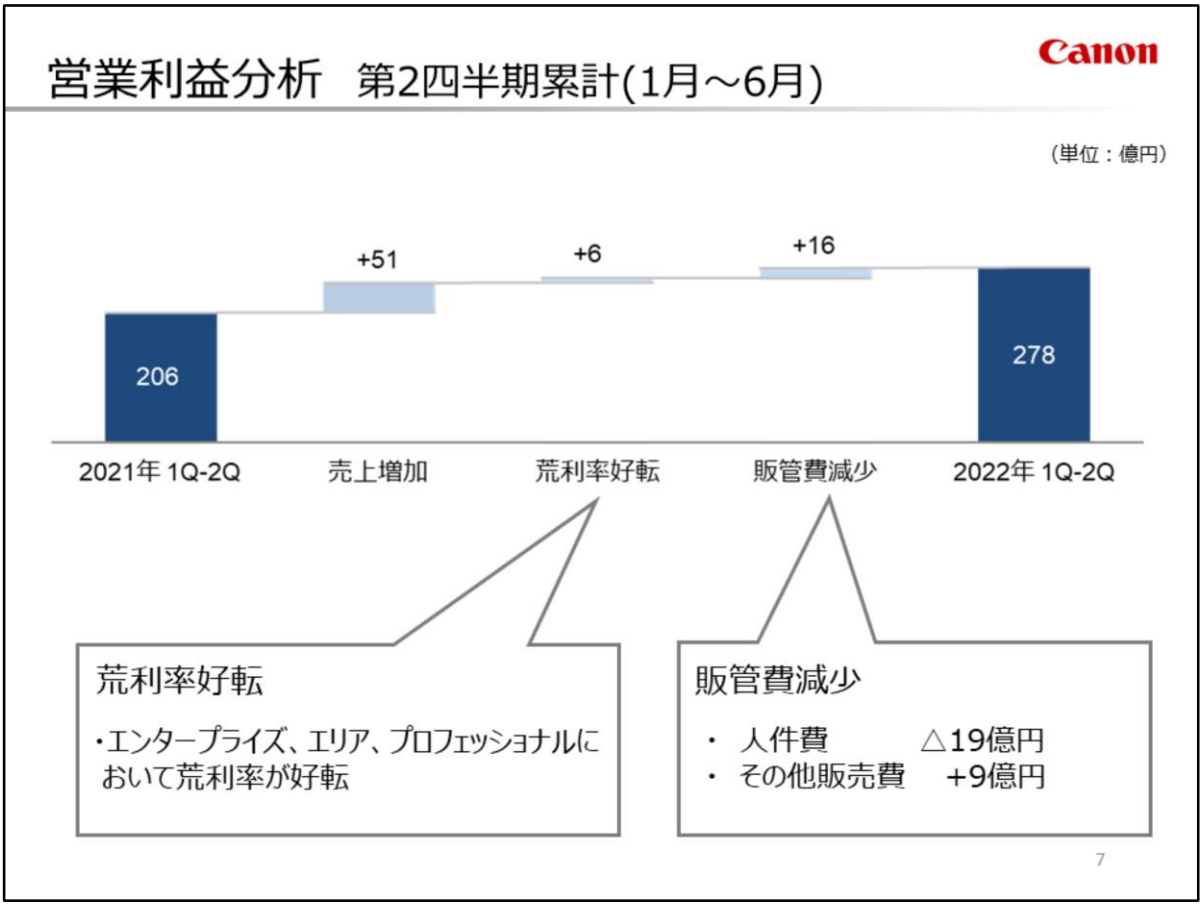
(単位：億円)

	2021年 1Q-2Q	2022年 1Q-2Q	前年同期比較 金額	前年同期比較 率
売上高	2,751	2,899	+147	+5%
売上総利益	(34.6%) 951	(34.8%) 1,007	(+0.2%) +57	+6%
営業利益	(7.5%) 206	(9.6%) 278	(+2.1%) +72	+35%
経常利益	(7.8%) 215	(9.8%) 284	(+2.0%) +69	+32%
親会社株主に帰属する四半期純利益	(5.5%) 151	(6.7%) 194	(+1.2%) +43	+29%

※「その他」には、セグメント間取引消去とシェアードサービス事業、各セグメントに配分していない全社費用等が含まれます。

6ページ目からは、累計の実績です。

2022年上期は、仕入れ価格や物流費等の高騰、製品の供給制約が継続する中において、
適切なコストコントロールと
ITソリューションを中心に提案力を強化し荒利率を上げた結果、
営業利益、経常利益、純利益において、上期の過去最高の数値を更新することが出来ました。



7ページ目は上期の営業利益分析です。

売上の増加に伴い荒利が51億円増加したことに加え、エンタープライズセグメント、エリアセグメント、プロフェッショナルセグメントで荒利率が好転したことにより6億円増加しました。

販管費につきましては、人件費のうち退職給付費用が減少したこと等により、16億円減少しております。

なお、第2四半期累計の販管費の詳細は24ページの「販管費の内訳」をご参照ください。

セグメント概要　第2四半期累計(1月～6月)

Canon

（単位：億円）

	2021年 1Q-2Q		2022年 1Q-2Q		増減	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
コンスーマ	612	67	628	66	+15	△0
エンタープライズ	919	62	1,005	95	+86	+33
エリア	1,162	73	1,128	85	△34	+12
プロフェッショナル	161	15	239	41	+77	+25
その他	△103	△12	△101	△9	+2	+3
合　計	2,751	206	2,899	278	+147	+72

※「その他」には、セグメント間取引消去とシェアードサービス事業、各セグメントに配分していない全社費用等が含まれます。

8ページ目は、上期のセグメント別の実績概要です。
エンタープライズセグメント、プロフェッショナルセグメントで大幅な増収増益となっております。

セグメント情報　コンスーマ

Canon

- ✓ 売上高は、レンズ交換式デジタルカメラやITプロダクト等の増加により、増収
- ✓ 営業利益は、販管費の増加等により、減益

（単位：億円）

	2Q実績		
	2021年	2022年	対前年
売上高	306	315	+3%
営業利益	37	35	△4%
利益率	12.0%	11.1%	△0.9%

■コンスーマ製品（対前年伸び率）

		1Q実績	2Q実績	3Q実績	4Q実績	年間
レンズ交換式デジタルカメラ	（台数）	+3%	+3%	-	-	-
インクジェットプリンター	（台数）	+6%	△0%	-	-	-
インクジェットプリンターカートリッジ	（金額）	+4%	△6%	-	-	-

9

続いて9ページ目からは、セグメント別の実績をご説明します。まずはコンスーマセグメントのご説明です。

2Qの売上は、インクジェットプリンターやコンパクトデジタルカメラは減少となったものの、レンズ交換式デジタルカメラやITプロダクト等の増加により、対前年3%増の315億円となりました。営業利益は、引き続き高単価なRFレンズが好調に推移しているものの、IT費用等の販管費が増加したこと等により、対前年2億円減益の35億円となりました。

（レンズ交換式デジタルカメラ）
レンズ交換式デジタルカメラについては、6月に発売した新製品「EOS R7」が好調に推移する等、EOS Rシステム搭載のミラーレスカメラが好調に推移し、対前年プラス3%となりました。また、交換レンズについても、ミラーレスカメラのEOS Rシリーズのユーザーが増加していることにより、RFレンズを中心に好調に推移しました。

（インクジェットプリンター）
インクジェットプリンターについては、製品の供給が戻りつつあるものの、一部不足している製品もあり、台数は前年並みとなりました。
インクカートリッジについては、４月の価格改定を見据えた駆け込み需要の反動等もあり、売上は減少しました。

（ITプロダクト）
ITプロダクトは、eスポーツ市場の拡大を背景にゲーミングPCが増加していることや、
PCの周辺機器等の一部商品において供給が回復していることから、売上は増加しました。

セグメント情報　エンタープライズ

Canon

- ✓ 売上高は、ITソリューションが好調に推移していることにより、増収
- ✓ 営業利益は、売上増加に伴う荒利の増加や、高付加価値な製品・サービスの拡大による荒利率の向上により、大幅に増益

（単位：億円）

	2Q実績		
	2021年	2022年	対前年
ビジネス機器他	153	153	△1%
ITソリューション	293	341	+16%
売上高計	446	494	+11%
営業利益	27	41	+54%
利益率	6.0%	8.4%	+2.3%

■（ご参考）主要関係会社実績

キヤノンITソリューションズ

	2Q実績		増減	
	2021年	2022年	金額	率
売上高	234	273	+39	+16%
営業利益	21	27	+6	+27%

キヤノンITソリューションズ受注高・受注残高（対前年伸び率）

		1Q実績	2Q実績	3Q実績	4Q実績	年間
受注高	（金額）	+14%	+19%	-	-	-
受注残高	（金額）	+33%	+34%	-	-	-

10

10ページ目は、エンタープライズセグメントのご説明です。

2Qの売上は、製品の供給不足の影響によりビジネス機器は減少しましたが、ITソリューションが増加したことにより、対前年11%増の494億円となりました。
営業利益は、ITソリューションを中心とした売上増加に伴う荒利の増加に加え、高付加価値な製品やサービスの拡大による荒利率の向上により、対前年14億円増益の41億円となりました。

（ビジネス機器他）
主要ビジネス機器の状況については、製品の供給不足の影響を受け、オフィスMFPの売上は減少したものの、レーザープリンターについては、大型案件の獲得により、売上は大幅に増加しました 。オフィスMFPの保守サービスについては、大手企業を中心にテレワークが継続し、オフィスにおけるプリントボリュームが減少したことにより、売上は減少しました。一方、レーザープリンターカートリッジについては、金融業向けが比較的堅調に推移し、売上は増加しました。
これらの結果、「ビジネス機器他」全体の売上は、対前年マイナス1%となりました。

（ITソリューション）
ITソリューションについては、製造業向けや金融業向けのSI案件が増加したことに加え、セキュリティやデータセンター2号棟の売上が順調に推移したこと等により、売上は対前年プラス16%となりました。

（キヤノンITソリューションズ実績／売上高・受注残高）
主要関係会社のキヤノンITソリューションズの売上は対前年16%増の273億円、営業利益は対前年6億円増の27億円となりました。

受注高は、製造業向けや金融業向けのSI案件が順調に推移したことに加え、データセンター2号棟の案件等が増加したことにより、対前年19%の増加となりました。
また、受注残高については、受注高と同様の傾向であることに加え、昨年受注したデータセンター2号棟の案件の影響等により、対前年34%の増加となっております。

セグメント情報　エリア

Canon

- ✓ 売上高は、ITソリューションが順調に推移したものの、主要ビジネス機器が供給不足の影響を受けたことにより、減収
- ✓ 営業利益は、高付加価値な製品・サービスの拡大による荒利率の向上、販管費の削減に努めたこと等により、大幅に増益

（単位：億円）

	2Q実績		
	2021年	2022年	対前年
ビジネス機器他	415	395	△5%
ITソリューション	154	162	+5%
売上高計	568	556	△2%
営業利益	34	40	+20%
利益率	5.9%	7.2%	+1.3%

■（ご参考）主要関係会社実績

キヤノンシステムアンドサポート

	2Q実績		増減	
	2021年	2022年	金額	率
売上高	247	242	△5	△2%
営業利益	8	11	+4	+50%

11

11ページ目は、エリアセグメントのご説明です。

2Qの売上は、ITソリューションが順調に推移したものの、ビジネス機器が供給不足の影響を受け減少したこと等により、売上は対前年2%減の556億円となりました。
一方で、営業利益は、ITソリューションを中心に、高付加価値な製品・サービスの拡大による荒利率の向上、販管費の削減に努めたことにより、対前年7億円増益の40億円となりました。

（ビジネス機器他）
主要ビジネス機器の状況については、製品の供給不足の影響を受け、オフィスMFP、レーザープリンターの売上は減少しました。オフィスMFPの保守サービスについては、引き続き大都市圏を中心にテレワークが継続したこと等により、オフィスにおけるプリントボリュームが減少し、売上は減少しました。レーザープリンターカートリッジについては、4月の価格改定を見据えた駆け込み需要が1Qにあった反動により、売上は減少しました。
これらの結果、「ビジネス機器他」全体の売上は、対前年マイナス5%となりました。

（ITソリューション）
ITソリューションについては、標的型攻撃やフィッシングなど情報セキュリティに対する脅威が高まっていることを背景に、IT支援クラウドサービス「HOME」やウイルス対策ソフト「ESET」等のセキュリティが好調に推移しました。また、お客さまのIT機器等の保守や運用サービスの獲得に注力し、受注件数が増加しました。これらの結果、「ITソリューション」全体の売上は、対前年プラス5%となりました。

（キヤノンシステムアンドサポート実績）
主要関係会社のキヤノンシステムアンドサポートの売上は、対前年2%減の242億円となりました。営業利益は高付加価値な製品・サービスの構成比を高めたことによる荒利の増加により、対前年4億円増の11億円となりました。

＊エリアここまで
<ネットワークカメラ>
　なお、「補足資料」に記載されております、グループトータルのネットワークカメラの2Q実績につきましては、一部製品で引き続き供給不足の影響を受けている状況ですが、依然として人との接触を避けた遠隔での映像の利活用のニーズが高いことから、売上は対前年で18%増となりました。

セグメント情報　プロフェッショナル

Canon

- ✓ 売上高は、全てのサブセグメントが増加し、大幅に増収
- ✓ 営業利益は、増収に伴う荒利の増加や、販管費の削減により、大幅に増益

（単位：億円）

	2Q実績		
	2021年	2022年	対前年
プロダクションプリンティング	22	22	+0%
産業機器	43	71	+66%
ヘルスケア	14	17	+20%
売上高計	80	111	+39%
営業利益	9	19	+121%
利益率	10.7%	17.1%	+6.3%

■（ご参考）主要関係会社実績

キヤノンプロダクションプリンティングシステムズ

	2Q実績		増減	
	2021年	2022年	金額	率
売上高	21	21	+0	+0%
営業利益	1	1	+0	+10%

12

12ページ目は、プロフェッショナルセグメントのご説明です。

2Qの売上は、全てのサブセグメントにおいて増収となり、対前年39%増の111億円となりました。営業利益についても、売上増加に伴う荒利の増加や販管費の削減により、対前年10億円増益の19億円となりました。

（プロダクションプリンティング）
プロダクションプリンティングについては、プリントボリューム低下に伴い消耗品販売が減少したものの、製造業を中心に投資が活発化していることを背景に、CAD用途のワイドフォーマットプリンターが好調に推移したこと等により、売上は前年同期並みとなりました。
主要関係会社であるキヤノンプロダクションプリンティングシステムズの売上は対前年微増の21億円となりました。営業利益は、販管費の削減により、対前年1千万円増の1億円となりました。

なお、お手元の補足資料の「ビジネス機器」の下から2行目に、プロダクションプリンティングに他セグメントの売上となっているプロダクションプリンタービジネスを加えた「商業印刷」として記載しております。
2Qの「商業印刷」は、プラス1%となりました。

（産業機器）
産業機器については、国内の半導体メーカーの投資が引き続き活発であることを背景に、半導体製造関連装置や保守サービスが好調に推移しました。また、一部の案件が前倒しとなった影響もあり、売上は対前年でプラス66%と大幅な増加となりました。

（ヘルスケア）
ヘルスケアについては、病院向けの電子カルテおよび医療IT基盤の構築等にかかる複数の案件に加え、診療所や調剤薬局向けにオンライン資格確認の導入案件があったこと等により、売上は対前年でプラス20%と大幅な増加となりました。

グループITソリューション売上

Canon

（単位：億円）

■セグメント別	2021年 2Q	2022年 2Q	2021年 1Q-2Q	2022年 1Q-2Q	増減 2Q 金額	増減 2Q 率	増減 1Q-2Q 金額	増減 1Q-2Q 率
エンタープライズ	293	341	604	703	+48	+16%	+99	+16%
エリア	154	162	326	337	+8	+5%	+11	+3%
その他	68	77	157	168	+9	+13%	+10	+6%
合計	514	579	1,088	1,208	+65	+13%	+120	+11%

■商品・ソリューション別	2021年 2Q	2022年 2Q	2021年 1Q-2Q	2022年 1Q-2Q	増減 2Q 金額	増減 2Q 率	増減 1Q-2Q 金額	増減 1Q-2Q 率
SIサービス	174	200	362	412	+26	+15%	+49	+14%
保守・運用サービス/アウトソーシング	103	119	204	244	+16	+16%	+41	+20%
システム販売・ITプロダクト	237	260	522	552	+23	+10%	+30	+6%
合計	514	579	1,088	1,208	+65	+13%	+120	+11%

※2022年より、一部商品事業の組替を行っており、2021年実績についても、その影響等の組替を行っております。
※その他には、コンスーマセグメント、プロフェッショナルセグメント、本社部門、セグメント間取引消去が含まれます。

13ページ目は、グループトータルのITソリューション売上です。

2022年より、一部商品事業の組替を行っており、2021年実績についても、その影響の組替を行っております。

2Qの実績についてご説明します。

セグメント別の、エンタープライズ、エリアの状況については、セグメント情報でお伝えしている通りです。その他については、コンスーマでITプロダクトが増加したことに加え、ヘルスケアで病院や診療所向けに電子カルテおよび医療IT基盤の構築にかかる複数の案件があったことにより、その他全体では、大幅な増収となりました。

続いて、商品・ソリューション別の状況についてご説明します。

「SIサービス」については、キヤノンITソリューションズで製造業向けや金融業向けのSI案件が、ヘルスケアで電子カルテの案件が好調に推移していることから、大幅な増収となりました。

「保守・運用サービス/アウトソーシング」については、エンタープライズでは、データセンター2号棟の案件やシステムの保守・運用が拡大していることにより、好調に推移しております。また、エリアでは、引き続き注力しているIT保守が堅調に推移したことにより、全体で大幅な増収となりました。

「システム販売・ITプロダクト」については、一部の商品において、半導体不足による商品供給不足の影響を受けたものの、エンタープライズ、エリアで「ESET」等のセキュリティが好調に推移したことにより、大幅な増収となりました。

業績予想サマリー

Canon

（単位：億円）

	2022年 年間 （前回予想）	2022年 年間 （今回予想）	増減 金額	増減 率	2021年 年間 （実績）	前年比較 金額	前年比較 率
売上高	5,830	5,900	+70	+1%	5,521	+379	+7%
営業利益	(7.1%) 415	(7.8%) 460	(+0.7%) +45	+11%	(7.2%) 397	(+0.6%) +63	+16%
経常利益	(7.4%) 430	(8.0%) 470	(+0.6%) +40	+9%	(7.4%) 411	(+0.5%) +59	+14%
親会社株主に帰属する当期純利益	(5.1%) 295	(5.4%) 320	(+0.4%) +25	+8%	(5.3%) 294	(+0.1%) +26	+9%

14

14ページ目は、業績予想サマリーです。

当社はこれまで、提案力の強化に注力し、高付加価値な製品・サービスの比率を上げ、荒利率を向上させると共に、販管費の削減に取り組み、より筋肉質な体質への転換を図ってまいりました。

上期はその取り組みの成果もあり、荒利率の向上と販管費の削減を実現し、大幅な増益を達成することができました。

下期についても、この取り組みを継続し、ITソリューションの利益ある成長を加速させるとともに、供給が回復するキヤノン製品の拡販にも注力いたします。

一方で、昨年から継続している半導体や物流費の高騰、そしてウクライナ情勢の影響による原材料価格の高騰にも適切に対処する必要があります。一部商品では既に販売価格への転嫁を行っておりますが、市場や商品の特性によっては販売価格への転嫁に時間を要する商品もあります。当社では商品への価格転嫁を可能な限り前倒しすることに加え、新型コロナウイルス感染症拡大への対策、生産性の向上を目的としたIT投資、独自のソリューションを生み出すための投資等、持続的成長を見据えた様々な投資を行ってまいります。

このような状況を踏まえ、今年度の業績に関しては、
売上を70億円、営業利益を45億円、経常利益を40億円、当期純利益を25億円、
上方修正いたします。

また、この修正に伴い、お手元の「補足資料」についても見直しを行っております。

業績予想　セグメント情報（前回比較）

Canon

（単位：億円）

	2022年 年間（前回予想）		2022年 年間（今回予想）		前回予想比較		
	売上	営業利益	売上	営業利益	売上 金額	売上 率	営業利益
コンスーマ	1,313	128	1,358	128	+45	+3%	-
エンタープライズ	1,980	140	1,995	164	+15	+1%	+24
エリア	2,325	136	2,325	145	-	-	+9
プロフェッショナル	398	34	408	46	+10	+3%	+12
その他	△186	△23	△186	△23	-	-	-
合計	5,830	415	5,900	460	+70	+1%	+45

※「その他」には、セグメント間取引消去とシェアードサービス事業、各セグメントに配分していない全社費用等が含まれます。

15ページ目は、セグメント別業績予想を前回公表値と比較したものです。

コンスーマセグメントでEOS Rシステム搭載のミラーレスカメラや交換レンズが、
エンタープライズセグメント、エリアセグメントで付加価値の高いITソリューションが、
プロフェッショナルセグメントで産業機器が、
好調に推移しました。

コンスーマセグメントで売上を45億円
エンタープライズセグメントで売上を15億円、営業利益を24億円
エリアセグメントで営業利益を9億円
プロフェッショナルで売上を10億円、営業利益を12億円

上方修正しております。

業績予想　セグメント情報（前年比較）

Canon

（単位：億円）

	2021年 年間（実績）		2022年 年間（予想）		前年比較		
	売上	営業利益	売上	営業利益	売上 金額	売上 率	営業利益
コンスーマ	1,295	136	1,358	128	+63	+5%	△8
エンタープライズ	1,906	139	1,995	164	+89	+5%	+25
エリア	2,208	120	2,325	145	+117	+5%	+25
プロフェッショナル	315	25	408	46	+93	+29%	+21
その他	△203	△23	△186	△23	+17	-	△0
合計	5,521	397	5,900	460	+379	+7%	+63

※「その他」には、セグメント間取引消去とシェアードサービス事業、各セグメントに配分していない全社費用等が含まれます。

16ページ目は、セグメント別業績予想の前年比較です。

コンスーマセグメントは、仕入れ価格の上昇やIT費用の増加により、増収減益となりますが、他セグメントでは増収増益を計画しております。

業績予想　セグメント情報

Canon

（単位：億円）

	2021年 1Q-2Q（実績）		2021年 3Q-4Q（実績）		2022年 1Q-2Q（実績）		2022年 3Q-4Q（計画）		増減 1Q-2Q		増減 3Q-4Q	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
コンスーマ	612	67	682	69	628	66	730	62	+15	△0	+48	△7
エンタープライズ	919	62	987	76	1,005	95	990	69	+86	+33	+3	△7
エリア	1,162	73	1,046	47	1,128	85	1,197	60	△34	+12	+151	+12
プロフェッショナル	161	15	154	10	239	41	169	5	+77	+25	+15	△4
その他	△103	△12	△100	△11	△101	△9	△85	△14	+2	+3	+15	△3
合　計	2,751	206	2,769	191	2,899	278	3,001	182	+147	+72	+232	△9

※「その他」には、セグメント間取引消去とシェアードサービス事業、各セグメントに配分していない全社費用等が含まれます。

17-1

17ページ目は、上期までの実績値および下期の業績予想の対前年比較となります。
次に、セグメントごとにご説明します。

まずは、コンスーマセグメントの下期の見通しです。
デジタルカメラについては、新製品の「EOS R7」や「EOS R10」の販売が好調に進むことで、年間の台数は増加する見通しです。また、交換レンズについても、RFレンズを中心に売上の増加を見込んでおります。
インクジェットプリンターについては、製品の供給が回復してくることから、台数は増加する見通しです。インクカートリッジについては、カラープリントの減少等による市場の縮小に伴い減少すると見込んでおります。
ITプロダクトについては、eスポーツ市場の拡大を背景にゲーミングPCが引き続き増加することに加え、PCの周辺機器等の売上の増加を見込んでおります。
営業利益については、仕入れ価格の上昇に加え、市場全体で供給制約の緩和が想定されることから、販売促進費が増加することやIT費用の増加等により、減益を見込んでおります。

これらの結果、売上は、下期、年間共に増収を見込んでおります。営業利益については、下期、年間共に減益の見通しとなっておりますが、5月・7月に発表したEOS Rシリーズの新製品とあわせて、カメラの顧客層別アプローチを強化することで更なる拡販を図ってまいります。

次に、エンタープライズセグメントの下期の見通しです。
主要ビジネス機器については、製品の供給が回復してくることから、オフィスMFP、レーザープリンターの売上は増加するものの、大手企業を中心にテレワークが継続し、オフィスにおけるプリントボリュームは減少すると見込んでおります。
ITソリューションについては、製造業、流通業向けのSI案件やデータセンター2号棟の売上が順調に推移する見込みです。

これらの結果、売上は、下期、年間共に増収を見込んでおります。一方、営業利益については、下期は、仕入れ価格の上昇、新サービスに関わるソフトウェア開発費や物流費等の販管費の増加、前年にあった複数のBPO案件の剥落により、減益を見込んでおりますが、年間では増益となる見通しです。

業績予想　セグメント情報

Canon

（単位：億円）

	2021年 1Q-2Q（実績）		2021年 3Q-4Q（実績）		2022年 1Q-2Q（実績）		2022年 3Q-4Q（計画）		増減 1Q-2Q		増減 3Q-4Q	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
コンスーマ	612	67	682	69	628	66	730	62	+15	△0	+48	△7
エンタープライズ	919	62	987	76	1,005	95	990	69	+86	+33	+3	△7
エリア	1,162	73	1,046	47	1,128	85	1,197	60	△34	+12	+151	+12
プロフェッショナル	161	15	154	10	239	41	169	5	+77	+25	+15	△4
その他	△103	△12	△100	△11	△101	△9	△85	△14	+2	+3	+15	△3
合　計	2,751	206	2,769	191	2,899	278	3,001	182	+147	+72	+232	△9

※「その他」には、セグメント間取引消去とシェアードサービス事業、各セグメントに配分していない全社費用等が含まれます。

17-2

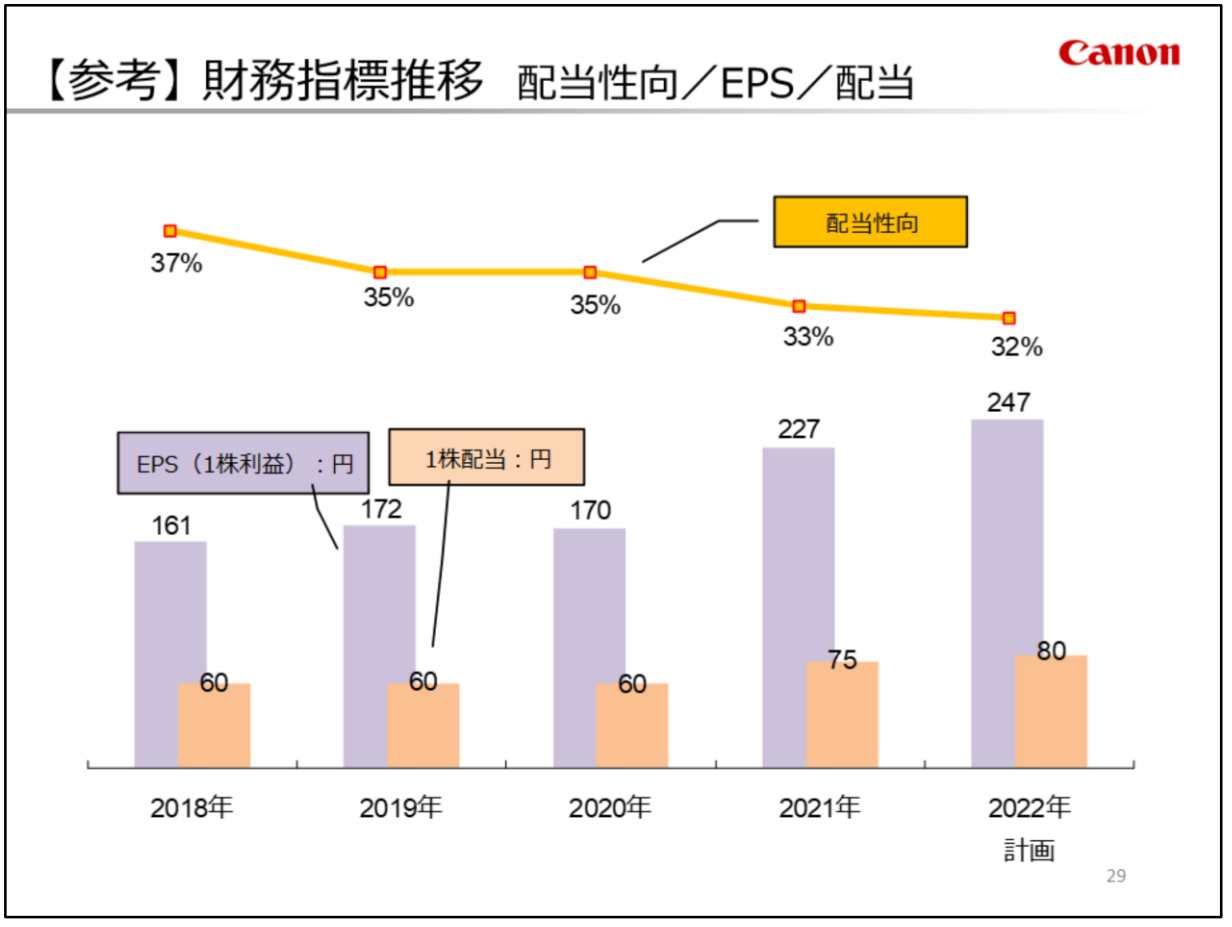
次に、エリアセグメントの下期の見通しです。
主要ビジネス機器については、下期は、製品の供給が回復してくることから、オフィスMFP、レーザープリンター等は増加する見込みです。
ITソリューションについては、IT支援クラウドサービス「HOME」やウイルス対策ソフト「ESET」等のセキュリティが引き続き好調に推移すると見込んでおります。営業利益については、仕入れ価格の上昇はあるものの、売上増加に伴う荒利の増加により、増益となる見通しです。

これらの結果、売上は、下期、年間共に増収を見込んでおります。営業利益についても、好調なITソリューションの牽引により、下期、年間共に増益となる見通しです。

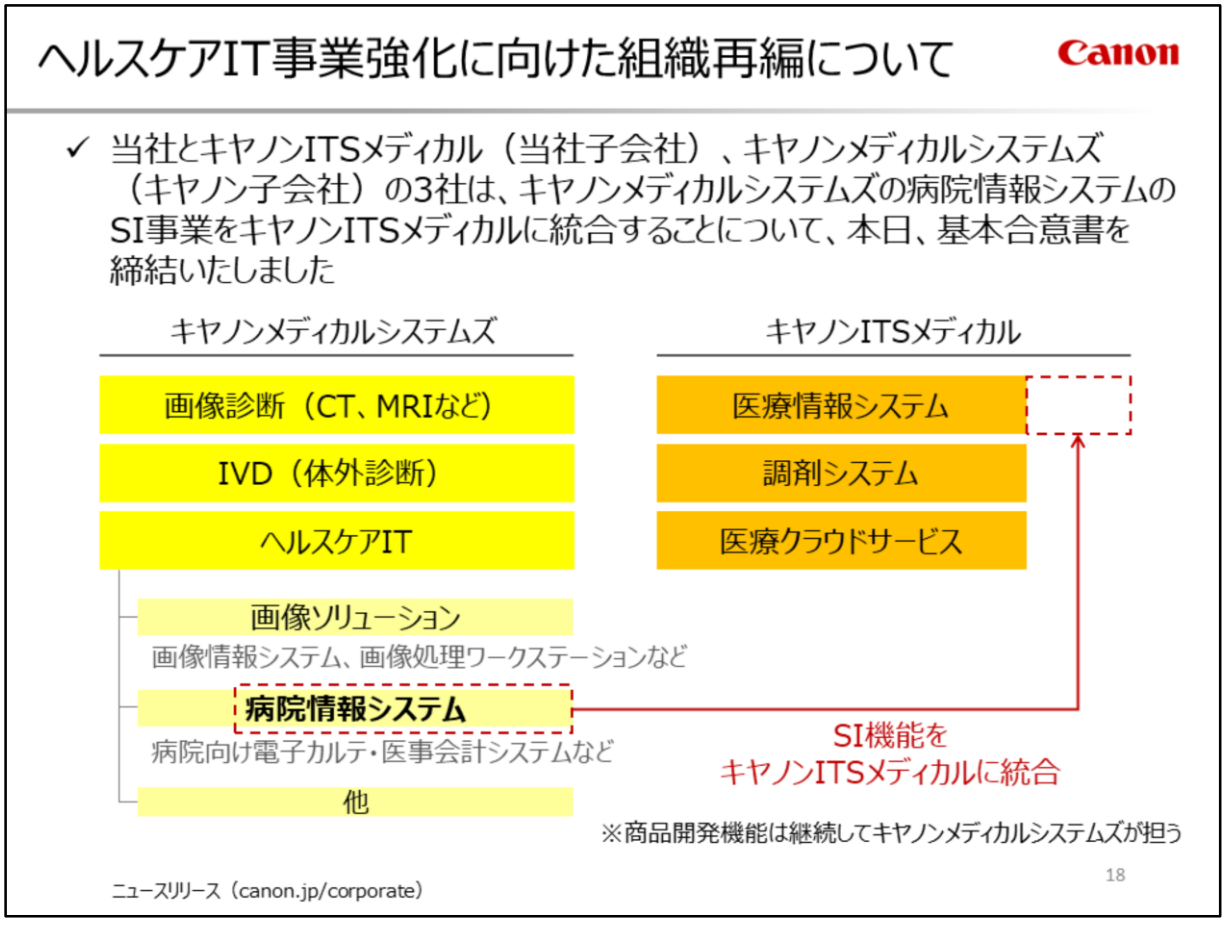
次に、プロフェッショナルセグメントの下期の見通しです。
プロダクションプリンティングについては、出版用途等でカラーの連帳プリンターが増加することが見込まれます。また、POPビジネスについても、小売店向けにソフトウェア案件の増加を見込んでおります。
産業機器については、3Q以降に予定していた案件が、上期に前倒しになった影響で減少することを見込んでおります。
ヘルスケアについては、電子カルテおよび医療IT基盤の構築等にかかる案件や、オンライン資格確認の導入案件が引き続き増加することが見込まれます。

これらの結果、プロフェッショナル全体の売上は下期、年間ともに増収を見込んでおります。営業利益については、下期は、前年に産業機器でサービスや部品の販売が大きく伸びたこと等が影響し、減益を見込んでおりますが、年間では増益となる見通しです。

次に配当についてご説明いたします。29ページをご覧ください。



こちらは年間の配当予想になります。
今回公表しました業績予想と、これまでの配当性向の実績を踏まえ、一株あたり中間40円、期末40円とし、年間配当額を75円から、80円に増配することといたしました。



最後に、本日ニュースリリースを出しているヘルスケアIT事業強化に向けた再編についてご説明いたします。

本日、当社およびキヤノンITSメディカル、キヤノンメディカルシステムズの3社は、キヤノンメディカルシステムズの病院情報システム事業における、SI事業をキヤノンITSメディカルに統合することについて、基本合意書を締結いたしましたのでご報告いたします。

キヤノンITSメディカルは、専門的かつ高度なSIが必要とされる病院向け情報システムのSIを得意としており、今回の統合により、業務の効率化・生産性の向上を図り、さらなる事業成長を目指します。

なお、統合の時期については決定しておりませんが、2023年の統合を目指して今後3社で具体的な協議を進めて参ります。

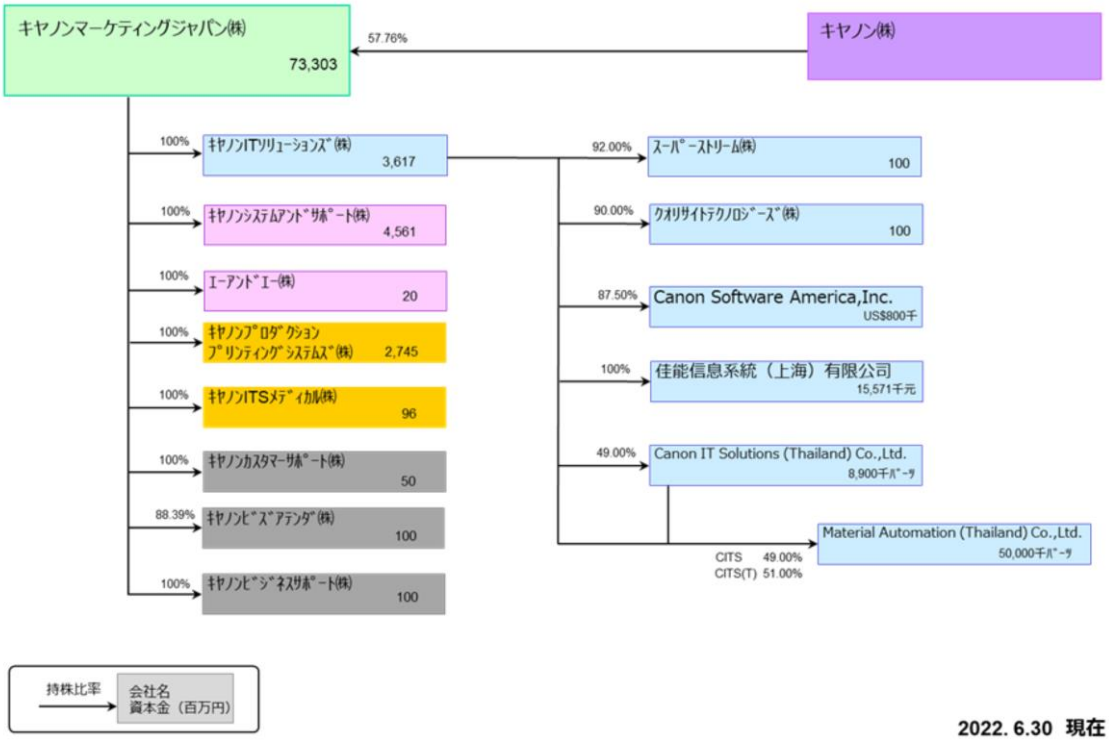
Canon

キヤノンマーケティングジャパングループ

2022年第2四半期決算と業績予想に関するご説明は以上となります。
ありがとうございました。

参考資料

【参考】関係会社出資関係図



2022. 6.30 現在

【参考】主要関係会社実績　第2四半期(4月～6月)

Canon

（単位：億円）

		2021年 2Q		2022年 2Q		増減 金額		増減 率
エンタープライズ								
キヤノンITソリューションズ	売上高	234		273		+39		+16%
	営業利益	21	(9.0%)	27	(9.8%)	+6	(+0.8%)	
エリア								
キヤノンシステムアンドサポート	売上高	247		242		△5		△2%
	営業利益	8	(3.1%)	11	(4.7%)	+4	(+1.6%)	
プロフェッショナル								
キヤノンプロダクションプリンティングシステムズ	売上高	21		21		+0		+0%
	営業利益	1	(4.5%)	1	(4.9%)	+0	(+0.4%)	

【参考】主要関係会社実績　第2四半期累計(1月～6月)

Canon

（単位：億円）

		2021年 1-2Q		2022年 1-2Q		増減 金額		増減 率
エンタープライズ								
キヤノンITソリューションズ	売上高	479		550		+71		+15%
	営業利益	45	(9.5%)	64	(11.7%)	+19	(+2.3%)	
エリア								
キヤノンシステムアンドサポート	売上高	509		490		△19		△4%
	営業利益	18	(3.5%)	26	(5.2%)	+8	(+1.7%)	
プロフェッショナル								
キヤノンプロダクションプリンティングシステムズ	売上高	42		44		+2		+5%
	営業利益	1	(3.5%)	3	(6.7%)	+2	(+3.3%)	

【参考】販管費の内訳　第2四半期(4月～6月)

Canon

（単位：億円）

	2021年 2Q	2022年 2Q	増減
広告宣伝費	10	10	+0
販売促進費	7	7	△0
保証費	7	7	△0
その他直接費	44	43	△1
人件費	241	232	△9
減価償却費	3	2	△0
その他販売費	66	71	+4
合計	378	372	△6

【参考】販管費の内訳　第2四半期累計(1月～6月)

Canon

（単位：億円）

	2021年 1Q-2Q	2022年 1Q-2Q	増減
広告宣伝費	18	18	+0
販売促進費	14	13	△0
保証費	15	14	△1
その他直接費	87	83	△4
人件費	477	459	△19
減価償却費	5	5	△0
その他販売費	129	137	+9
合計	745	729	△16

【参考】営業外収支の内訳

Canon

（単位：億円）

	2021年		2022年		増減	
	2Q	1Q-2Q	2Q	1Q-2Q	2Q	1Q-2Q
受取利息	1	1	1	1	+0	+0
受取配当金	1	1	1	1	+0	+0
受取保険金	5	5	4	4	△0	△0
投資事業組合運用益	0	2	-	-	△0	△2
その他	0	1	1	1	+1	+0
営業外収益　計	7	11	7	9	+1	△2
支払利息	0	0	0	0	△0	△0
為替差損	0	0	△0	1	△0	+0
投資事業組合運用損	-	-	0	2	+0	+2
その他	0	1	0	1	△0	△0
営業外費用　計	0	1	0	3	△0	+2

【参考】特別損益の内訳

Canon

（単位：億円）

	2021年		2022年		増減	
	2Q	1Q-2Q	2Q	1Q-2Q	2Q	1Q-2Q
固定資産売却益	0	0	0	0	+0	△0
投資有価証券売却益	-	0	-	0	-	+0
関係会社株式売却益	-	9	-	-	-	△9
その他	0	0	0	0	△0	△0
特別収益　計	0	9	0	0	+0	△9
固定資産除売却損	0	1	0	0	△0	△0
災害による損失	2	2	-	-	△2	△2
投資有価証券評価損	-	-	0	0	+0	+0
その他	-	-	0	0	+0	+0
特別損失　計	2	2	0	1	△2	△2

【参考】貸借対照表

Canon

（単位：億円）

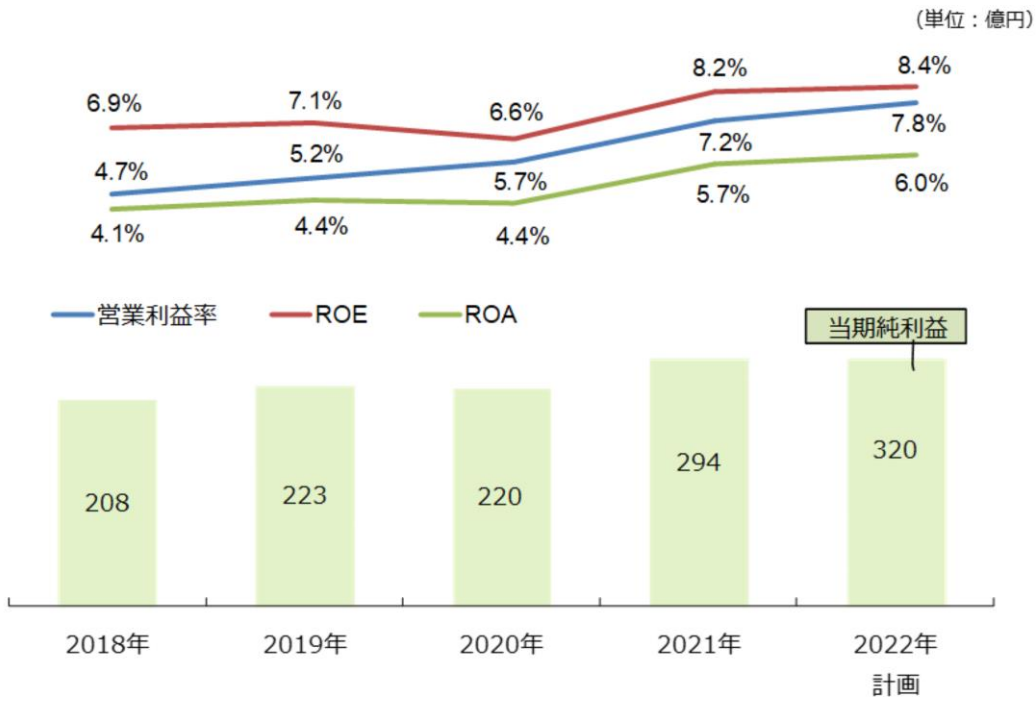
	2021年 12月	2022年 6月	増減
資産	5,264	5,286	+22
流動資産	3,961	4,024	+63
金融資産	680	887	+207
売掛債権	1,074	906	△167
棚卸資産	352	348	△4
その他	1,854	1,882	+27
固定資産	1,303	1,262	△41
有形固定資産	852	841	△10
無形固定資産	65	61	△4
投資その他	387	360	△26
負債	1,517	1,434	△83
流動負債	1,071	1,002	△69
買掛債務	463	416	△47
その他	608	586	△22
固定負債	446	432	△14
純資産	3,747	3,852	+105
株主資本	3,629	3,764	+135
（自己株式）	△21	△21	+0
その他の包括利益累計額	111	80	△31
新株予約権	-	0	+0
非支配株主持分	7	8	+0
株主資本比率	71%	73%	+2%

■売掛債権

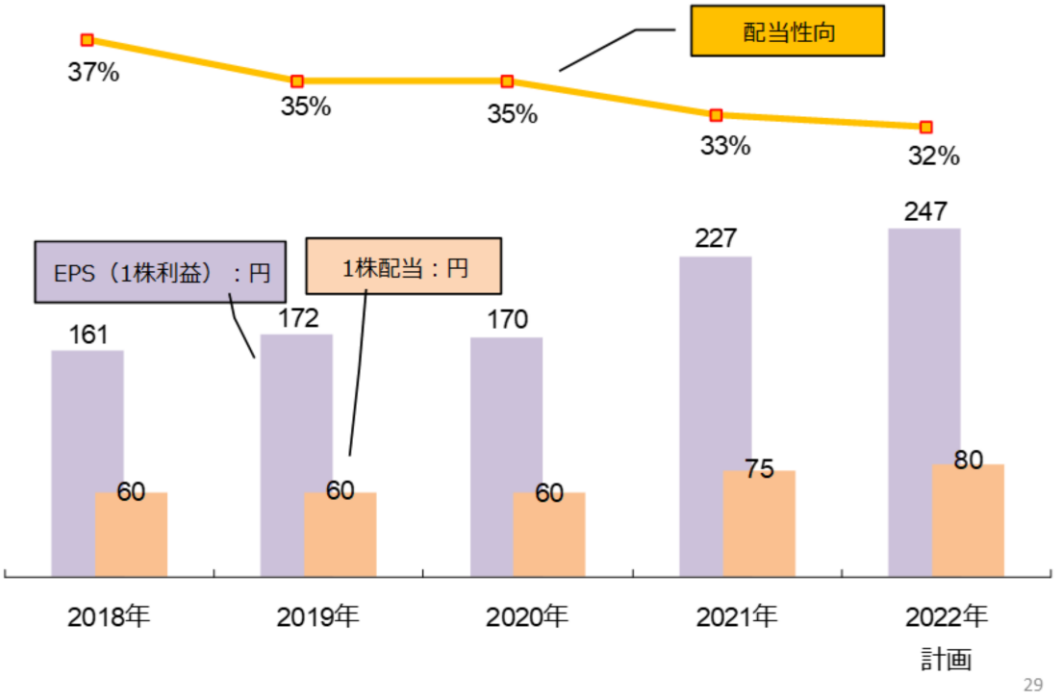
（単位：億円）

■棚卸資産

【参考】財務指標推移　営業利益率／ROA／ROE



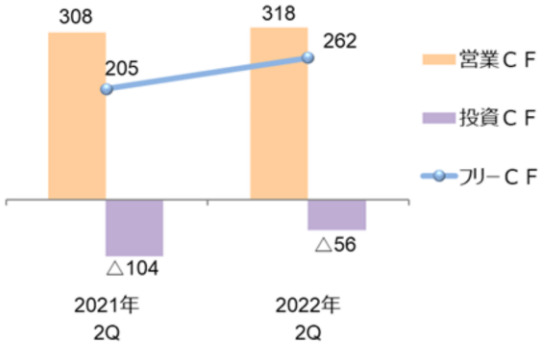
【参考】財務指標推移　配当性向／EPS／配当



【参考】キャッシュ・フロー／設備投資・減価償却

Canon

■キャッシュ・フロー



■設備投資

（単位：億円）

	1Q-2Q 実績	3Q-4Q 計画	年間
2021年実績	74	53	126
2022年計画	35	91	126

※2022年1Q-2Qは実績を記載しております。

■減価償却

	1Q-2Q 実績	2Q-4Q 計画	年間
2021年実績	52	50	102
2022年計画	49	49	97

※2022年1Q-2Qは実績を記載しております。

Canon

キヤノンマーケティングジャパングループ